

A Challenging Job

明日へ 未来へつながる農業⁽²⁶⁾

白く柔らかな毛にまっくるな顔、優しい瞳。今年5月から飯田市上郷上黒田の「竹炭牧場」で飼育されている2匹のサファオーラーク種のヒツジ「サクラ」と「ヤエ」は、愛らしい姿と人懐っこい性格ですっかり人気者になっています。

飼育しているのは、地元有志でつくる「竹炭の会」(北原直人会長)。ヒツジたちの旺盛な食欲を利用して遊休農地の雑草を退治し、害獣よけや動物愛護教育にも役立てようと、手づくりの牧場をオープンさせました。

同会は15年ほど前、荒れ放題になっていた地元の竹やぶで竹炭を生産することを目的に発足。近年は農地にも目を向け、耕し手がいなくなつた田畠を借りてコメやサトイモ、トウモロコシなどの栽培にも取り組んでいます。会員の多くは地元在住の農家や定年退職者ですが、野良仕事が好きで地域外から熱心に参加している人もいます。

サファオーラークの飼育を提案したのは会員の岩崎勝さん(76)。農業を営む岩崎さんは、1970年ごろから四半世紀にわたり、農業を営む岩崎さんは、1970年ごろから四半世紀にわたり、サファオーラーク種を飼育した経験があ

り、雑草が生い茂る耕作放棄地を見るたびに「これを餌にしてヒツジが飼えないものか」と思っていたそうです。

その願いは今年になってついに実現しました。飯田市農業振興センターの支援と小林めん羊牧場(同市上久堅)の協力を得て、生後1年2ヶ月のメス2匹を5月8日に購入。牧場は会員たちが力を合わせて近くのやぶから竹を切り出し、柵を設けて完成させました。



ヒツジの食欲パワーで農地を守れ
竹炭の会(飯田市上郷黒田)

はざかけ米やサトイモの栽培も

竹炭の会は、牧場周辺の田畠ではざかけ米やサトイモ、トウモロコシの栽培にも力を入れています。収穫物は希望する会員に配分するほか、「生活菜園」(飯田市鼎名古熊)を通じて全国の消費者に販売しています。

サトイモ栽培はとして栽培5年目を迎え、「食感がモチモチしていておいしいと評判だよ」と会長の北原直人さん(69歳)は胸を張ります。例年600kgほどの収量がありますが、まだまだ需要に追いついていません。

トウモロコシの脇芽を餌に利用したり、春の田でレンゲを栽培して放牧させたりと、サフォーク飼育との連携も模索・計画しています。

売り上げは、作業に参加した会員の日当のほか、年数回の親睦会の費用に充てています。その宴席にサフォーク肉が並ぶのも遠い先のことではありません。



▲牧場に隣接する畠。今年はサトイモ1100株余りを植え付けました

アセビなど一部の有毒植物や農薬にさえ注意すれば、サファオーラークはどんな草でも喜んで食べます。ヤエとサクラは、10ヶ月程度の雑草地なら10日で食べつくす。大食漢。開設前にはニセアカシアやススキオーラーク種のヒツジ「サクラ」と「ヤエ」は、愛らしい姿と人懐っこい性格ですっかり人気者になっています。

2匹は秋までこの牧場で過ごし、冬は小林めん羊牧場で種付けされる予定です。ゆくゆくは飼育数を増やし、「リニア中央新幹線が開くころには、外から来た人に焼き肉を楽しんでもらえるようになればいいね」(岩崎さん)と、会員たちは夢を膨らませています。

地元の子どもたちに動物愛護の意識を育てる機会を提供するのも竹炭牧場の目的の一つです。5月31日には、入舟幼稚園の園児らが牧場を訪れ、野菜などを手渡してプレゼント。「食べてくれた」「かわいい」との歓声が牧場にこだました。

アセビなど一部の有毒植物や農薬にさえ注意すれば、サファオーラークはどんな草でも喜んで食べます。ヤエとサクラは、10ヶ月程度の雑草地なら10日で食べつくす。大食漢。開設前にはニセアカシアやススキオーラーク種のヒツジ「サクラ」と「ヤエ」は、愛らしい姿と人懐っこい性格ですっかり人気者になっています。

▼かわいいサファオーラーク種のヒツジは幼稚園児にも大人気(5月31日)。「農薬のかかっていない草なら、いつでもだれでも差し入れ歓迎です」と同会
▲竹で柵を組んだ手作りの牧場。やんちゃら性格のサクラが逃げ出すハプニングもあったとか

記事に関する問い合わせ
●飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217